

謹賀新年

日退協

埼玉会だより

JARP



彩の国さいたま

平成30年の年頭に当たって

埼玉会代表幹事 **富山 忠昭**



明けまして おめでとうございます

埼玉会会員の皆さまには健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年も日退協・埼玉会に変わらぬご理解とご支援を賜るようお願い申し上げます。

さて、埼玉会も発足9年目に入っておりその活動も年々充実してきておりますが、今年も参加して楽しい、面白い、ためになるイベントや講演を企画して参りますのでご期待ください。

ただ課題もあります。新入会員の入会が少なくなってきたのです。

これからの1年間の主な予定もできており、別項に掲載しております。新しい仲間との触れ合いが、イベントをさらに楽しく、面白く活性化されますので、会員の皆さまの友人・知人をお誘いの上、ご一緒に参加されるようお願い申し上げます。

埼玉会イベントのご案内

イベント幹事: **地畑 健吉**

今後のイベント予定は次のとおりです。イベントごとに詳細なご案内を致します。「参加」希望者は次のページ巻末の事務局まで①e-mail または②FAX でお申込みください。

1. H30.4.4(水)「長瀨一お花見」(第37回)
2. H30.5.30(水)「平成29年度総会&講演会」(予備日)5.28(月) 於:浦和パレコ
3. H30.6.中旬「北山公園菖蒲苑」(第38回)
4. H30.7.上旬「読売新聞府中工場とサントリー武蔵野ブルワリーの見学」(第39回)
5. H30.8.上旬「納涼の会」(企画:女子会)
6. H30.9.中旬「秩父札所四番金昌寺の石仏群」(第40回) - 秩父シリーズ NO.7 -
7. H30.9.25 「第25回ゴルフコンペ」 於:武蔵 OGM・C.C
8. H30.11.中旬「足利学校-織姫神社」バスツアー(第41回)
9. H30.11.26 「第26回ゴルフコンペ」 於:武蔵 OGM・C.C
10. H31.1.初旬「初詣・新年会」(場所未定)
11. H31.2.中旬「石坂産業」見学 (第42回)
12. H31.3.下旬「第27回ゴルフコンペ」 於:武蔵 OGM・C.C

個人会員増強運動

会員対策委員: **関谷 一郎**

平成29年度もあと2か月です。埼玉会の会員は12月末では新入会員3名、退会10名で115名となっており、今年度会員数目標130名の達成が厳しい状況です。

お知り合いの方へのイベントへのお誘いなど、引き続き、会員増強にお力添えくださるようお願いいたします。

JARPには年齢・性別、現役・退職者を問わず、どなたでも入会できます。入会については、埼玉会事務局までご連絡ください。ご本人に直接、資料をお送りします。

また、協会ホームページからも入会申込みが可能です。

「初詣」と「新年会」に参加して

世話人: **石井 憲**



1月9日(火)、一年間の無病息災を願い、会員21名の参加を得て、日高市の高麗神社を参拝しました。

当日は前日までの厳しい寒さとは打って変わり、最高温度は17度まで上がり、春を思わせるような絶好の初詣日和となりました。参加の皆様は口々に「これも会員の日頃の行いによるもの」などと勝手なことを言っておりました。

高麗神社は7世紀に高麗からの渡来人により創建された歴史のある神社で昨年の9月には天皇皇后両陛下も訪問されております。また、本殿裏には代々の宮司の住居として使用してきた国指定重要文化財高麗家住宅もあり、改めて、渡来人と渡来文化の歴史を考えさせられました。高麗神社参拝後、隣接している高麗一族の菩提寺である聖天院も参拝しました。高台にあるため、本殿までは息が弾むほどの登り階段に閉口しましたが、展望台から日高市を一望する景色に生き返った思いです。

夫々の皆様が昨年の御礼と今年の祈願をしたところで、坂戸に場所を変え、いよいよ新年会です。会場は日頃から坂戸会がいつもお世話になっている安兵衛です。会長からの年頭のご挨拶に始まり、平松さんの三本締めまで、料理に舌鼓を打ち、大いに飲み、歓談した3時間でした。安兵衛さんには特別なご配慮をいただき、感謝しております。

～埼玉会のさらなる発展と埼玉会会員のますますのご健勝を祈念いたします。～

わが故郷

高岡 治夫 (志木市)



北陸富山の岩瀬浜は生まれ育った所で、特に湾越に見る空気の澄んだ冬季三千メートルを超す立山連峰は、美しく雄大で見事です。魚も冬はブリ、タラ、ムツ、ゲンゲ、白エビ。春は蛍イカ、上げればキリがありません。

せんが、たまらなく旨いものが取れます。川魚も五月初旬神通川で鱒が沢山取れ、立山山麓の新芽の熊笹でくるんでつくる押し鮎は、おいしい富山の名産品として有名です。

大昔の事ですが、かつて港は加賀前田藩の直轄で厳しい管理があったと聞いております。

岩瀬港はバイ船(一般的には北前船と言われていたが)と呼ばれる帆船の基地で、遠く北海道からカムチャッカなどへも行っており、当時の交流の資料も残っています。現在も大町通りには元回船問屋の昔栄えた面影を残して、往時を偲ぶことが出来ます。

今や北陸新幹線も開通して、なんと東京から約2時間で富山へ行けます。

どうぞ是非、山に海にいらしてください。

≪ 埼玉俳壇 ≫

元日の静かに暮れて日記書く

地畑朝子

花言葉

さざんか 山茶花



堰 (ペンネーム)

サザンカは日本原産の木で、花の少ない冬に開花し、庭に明るさを差し込みます。花言葉は全体的には「困難に打ち勝つ」「ひたむき」です。

寒さに耐え静かに美しく咲きます。

頑張っているとか、辛いとか自らアピールするでもなく只黙々と。

「山茶花のはな散りすぎて庭のうへにあたる日の色濃くなりけり」 釈道空。

人間でも何でも、言わなくても見ている人に伝わりますが、黙々とかっこいい人、美しい人、見習いたいですね。

秩父札所巡り 半日コース

世話人 菊池 正美

平成 29 年 11 月 17 日 (金) 快晴。12:00 秩父鉄道御花畑駅に 13 名集合。

① 札所 13 番「慈眼寺」。本尊は聖観世音菩薩で、ここの薬師堂は目の守り神として有名である。②「今宮神社」。ここは、秩父霊場の発祥の地です。③ 14 番「今宮坊」。ここには、弘法大使の作といわれる聖観音像がある。④ 16 番「西光寺」。ここには、四国八十八ヶ所霊場のご本尊の写しがあり、この本尊を全部拝むと四国の霊場をお参りしたと同様の功德が得られるとのこと。⑤ 17 番「定林寺」。この寺の鐘楼には、四国・坂東・秩父の観音像が彫られた銅鐘がある。⑥「秩父神社」は荘厳で、社殿の彫り物(子育てのトラ・お元氣三猿・北辰の鼻)もすばらしく、いつでも訪れたい場所のひとつです。⑦ 15 番「少林寺」。この寺は、白色の漆喰塗りで仕上げた本堂で、札所中唯一の土蔵造りの寺です。以上を巡り、15:10 頃御花畑駅に到着、解散。天候に恵まれ、良い功德を得られました。



「私の大切な覚書き」について

「エンディングノート」とは、遺された人・大切な人へのメッセージを「自分の終末期や死後のあり方」・「葬儀・墓の希望」等について考えを明確に書き残し、確実に伝わるように纏めておくものです。

協会が『私の大切な覚書き』を発刊して 7 年を経過しました。金融機関を初め、年金受給者対象にセミナー等で 30 数万部以上の方々にご利用いただいております。参考資料や必要とする知識等情報が豊富に掲載され信頼度の高い内容になっております。高齢社会を迎え「終活」に関心が高まる中、ご夫婦・ご家族・ご友人等書き始めましょう。生存中何回か書き直すこともあるかもしれない・・・。

一部 324 円 (税込み) 本部事務局まで・・・。

副会長・生活情報委員会委員長 関根 貞夫

氷川神社(武蔵一宮)にまつわる話〔その②〕

影の近代化羅針盤・小栗忠順

世話人：藤田 信一

大宮駅西口を出て、かつての川越電気鉄道を脇見に、25 分程歩くと、普門院という名刹の禅寺があります。そこに、忠順の首塚と小栗家が、苔の生えた姿で眠っています。作家・井伏鱒二の「普門院さん」の舞台です。

小栗忠順は、安政 7 年(1860)、日米修好通商条約(後の不平等条約) 批准のため、米艦ポーハタン号で渡米し、多くの場所や事柄に触れ、洋式軍隊の整備、横須賀製鉄所の建設、造船所の必要性、郵便の創設提案(後の前島密に引き継がれた)、日本最初の株式会社(コムペニー)の兵庫商社に尽力(company を訳したのは小栗とされる)など近代化の骨組みに業績を上げ、近代化の基礎となる思想を持ち込んだのです。

しかし、明治維新の流れで、上野国権田村(現群馬県)で隠遁生活の末、政府軍により斬首されたのです。大隈重信の「小栗は謀殺される運命にあった。何故なら明治政府の近代化は、そっくり小栗のそれを模倣したものだから」と東郷平八郎の「日本海海域の勝利は、小栗さんが横須賀造船所を造っておいてくれたおかげ」という言葉が、北朝鮮の問題が現実化している今日、何を暗示しているのでしょうか。

埼玉会ゴルフコンペに優勝して

優勝者 相吉澤 彰

参加されたプレイヤーの皆様様の調子が今一だったと思われること、プラスして天気にも恵まれて優勝することが出来ました。ありがとうございます。

私のゴルフは全て自己流ですが、以前からネットに掲載されていたレッスンプロのスイング理論が頭にあり、退職を機にその理論に基づいてスイングの改善に取り組んでいます。3 年経過して未完成ながら大きなミスが減り安定したように思います。

(ご参考までに)

理論の中心は、腕の振り一点に意識を集中すること。腕を振るとは、肩関節から先の腕と胴体を分けて考え、右腕の引き押しと、ひじの曲げ伸ばしで左腕とクラブを一体で動かす、腰の捻り、肩を回す、体重移動などは腕の振りに付随して動くもの。

<平成 29 年 11 月 27 日(月)>

森 秀雄会員「平成 29 年 日展に篆刻で入選」

平成 29 年 10 月 23 日 公益社団法人日展による平成 29 年第 4 回日展の入賞者が発表されました。

森秀雄氏は、本埼玉会だより 6 号でも社会貢献やご自分の趣味などその多彩な人柄をご紹介しますが、その多彩な趣味の中のひとつである「篆刻」で平成 8 年から本展覧会

に挑戦を続け、今回見事入選されました。

全出展 8,457 点で入賞は 12.1%、そのうち新入選数はわずか 3.1%(268 点)という大変厳しい競争を勝ち抜かれたものです。

“21 回の挑戦が実り、この上ない喜びです!”

とは、ご本人の受賞、喜びのお言葉です。

おめでとうございます!!



疾風迅雷 丁酉秋 秀雄刻

発行者 公益社団法人 日本産業退職者協会・埼玉会
代表幹事(兼事務局) 畠山 忠昭

事務局 〒332-0031 川口市青木 1-22-17-902

TEL&FAX 048-259-5917

e-mail jarp_saitama@yahoo.co.jp